



うえ だ ひろ あき
上田 寛 彬

生 年 月 1985年1月熊本県生まれ
最終学歴 2015年和歌山大学大学院
システム工学研究科博士
後期課程単位取得退学
業務経歴 2011年～本多環境・建築
設計事務所に設計協力
●担当した主なプロジェクト
2011年 有田市そとはま保育所
2013年 重ね格子梁の構造実験と提案
2016年 立ち寄りどころのある複合
福祉施設
2020年 緑の立体街路を持つ福祉施設
2014～2016年
傾斜地集落における地域資
産としての環境価値の発見
と再生

●受賞
第2回きのくに建築賞 紀州材賞

■青年技術者のことば

建築を学び始めた頃、大学の構内に同期数人で体育倉庫のセルフビルドを行いました。廃校となった木造校舎の木材を再利用し、稲藁を収穫後の田んぼから分けてもらい、ストローベイル工法を採用しました。また、土壁に使う土をつくり、地域の職人の方に教わりながら壁を仕上げました。振り返ると、大学キャンパス内に実施成果を残すことができた一方で、建築を単体の技術の対象として捉えておりました。

私はこれまで、「地域環境や集落の調査・研究と実務」、「環境と建築」の行き来の中から、建築を考えてきました。

調査・研究でのフィールドワークは、高齢化し、人口が減少していく中で、集落の住民や地域の方と一緒に、これからの地域を創造的に考えることもありました。セルフビルドを行ってから、15年が経ちます。現在では、その地域や文化、生活や社会を深く考えることの大切さを知り、その先に環境と建築の創造と可能性が広がっていると感じております。

今までの活動の中で学んできた「環境と建築」の視点を軸に、地域社会と環境の中で、多様な文化や地域性、その時々社会性に対して、環境と建築がどうあるべきか、これからも深く考え続けていこうと思います。

■すいせん者

本多友常
本多・環境建築設計事務所 代表



雨と風と光が入り込み内外の境を曖昧なものとする立ち寄りどころ



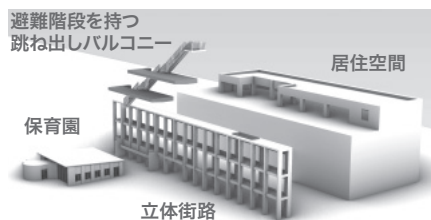
まち並みに開かれた音楽会



学習塾の奥に見える中庭とシニアフィットネス

立ち寄りどころのある複合福祉施設

まちに開かれたシニアフィットネス、子育て支援、学習塾を組み合わせた小規模な複合福祉施設である。挿入されたデッキは、光や風を建物内部へと導き、雨滴でさえ落ちてくる穴の空いた天井は、インテリアとエクステリアの境を曖昧なものとしている。立ち寄りどころは建物と並行に計画された庭と共に、まち並みから建築への連続性として構成されている。



立体的、重層的に構成された緑の街路



まち並みに開かれた緑のファサード

緑の立体街路を持つ福祉施設

障がいを持つ方々の住まいとなる福祉ホームと企業内保育を主目的とした保育園を合わせ持つ福祉施設である。立体的な緑の街路は、居住空間と街並みの間に挿入され、跳ね出した避難階段とバルコニーは、地上から緑のつながりを作り出している。施設から飛び出した子供の活動とともに、まちとの重層的なつながりを構成している。



外壁と防風壁が一体となったような石積み



石垣の擁壁の上に建つ築117年の旧大己小学校

傾斜地集落における地域資産としての環境価値の発見と再生（築117年、増築後107年の木造小学校の調査研究）



ストローベイルの壁と軒下のある体育倉庫



土壁の塗られたストローベイルの外壁



ストローベイルが積まれた施工時の壁

環境と建築を考える原点となったセルフビルドによる体育倉庫